

日本水素エネルギー産業会議設立へ

産学政官で来年6月

発起人代表に 平沼赳夫氏 地域と国際に視点

産学政官などの多様なセクターが、水素エネルギー社会構築に向け連携する業界団体「日本水素エネルギー産業会議」が、来年六月をめどに発足する。平沼赳夫前経済産業相が設立発起人代表となり、ほか中川昭一経産相や柏木孝夫東京農工大学大学院教授、平田賢東京大学名誉教授らが発起人に名を連ね、国内外の関連企業の参加を幅広く呼びかける。「地域」と「国際」の二つの視点から事業化推進など多角的な活動を展開するほか、来年十月には水素関連技術や燃料電池など関連製品に関する日本初の総合展示会「国際水素エネルギー産業展」(共催・環境新聞社)をパシフィコ横浜で開催する。

来秋、横浜で展示会も



平沼赳夫氏

業を網羅し、「水素エネルギー産業」を確立させる狙い。

政治家や学識経験者が発起人となり、産業界に対して入会を呼びかけ、設立後は産業界をサポートする役割で、あくまでも主役は産業界としている。他の発起人は、古屋圭司衆議院議員、三村申吾青森県知事、市川勝北海道大学教授、井手秀樹慶応大学教授、金田武司ユニバーサルエネルギー研究所社長。設立準備事務局はユニバーサルエネルギー研究所(東京都渋谷区、03・5789・5767)内に置かれる。

同会議は、来るべき水素社会の具体像を描くことも、地域活性化や国際貢献などをキーワードとして水素を位置付けた議論を展開する場として設立するもの。

会員企業としては、国内外のエネルギー産業、鉄鋼業など素材メーカー、商社、燃料電池メーカーや自動車メーカー、ゼネコンなど、水素の製造・貯蔵・輸送・利用に関連するあらゆる産

業を網羅し、「水素エネルギー産業」を確立させる狙い。政治や学識経験者が発起人となり、産業界に対して入会を呼びかけ、設立後は産業界をサポートする役割で、あくまでも主役は産業界としている。他の発起人は、古屋圭司衆議院議員、三村申吾青森県知事、市川勝北海道大学教授、井手秀樹慶応大学教授、金田武司ユニバーサルエネルギー研究所社長。設立準備事務局はユニバーサルエネルギー研究所(東京都渋谷区、03・5789・5767)内に置かれる。同会議では、地方自治体

なご共同で水素関連ビジネスをプロモートして具体的な事業の可能性を検討し、エネルギー面からの地域活性化を図る「事業化推進委員会」と、水素分野における諸外国との国際共同プロジェクトの立案や国際協力推進に関する政策提言を行う「国際協調委員会」の二つを設け、地域と国際の視点から水素社会の構築を模索する点特徴。両委員会での検討内容を踏まえ、日本全体の水素ビジョンも検討する。活動内容は、中長期的な水素社会ロードマップの検討とそれに基づく政策提言、基本データの調査と分

析、また日本初の水素エネルギーの総合展示会となる国際水素エネルギー産業展やセミナー、シンポジウムによる情報発信など多角的に展開する。第一回国際水素エネルギー産業展は来年十月二十六、二十八日に開催される。出展料は、会員が小間二万四〇〇〇円から、非会員が同三万六〇〇〇円からとなる予定。連絡先は国際水素エネルギー産業展事務局(環境新聞社事業部内、03・33359・5349)。

会員としては、企業会員は理事会員と一般会員とし、地方自治体などは協力会員となる。企業会員の場合、入会金は三〇万円、年会費は理事会員七〇万円、一般会員四〇万円となる見通し。また自治体などの協力会員は入会金、年会費とも一〇万円。